# 風のダンス

翠

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

## 注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
風のダンス

【Ｎコード】
Ｎ３７４５Ｍ

【作者名】
翠

【あらすじ】
【アルト×シェリル】アルトとシェリルの平和な日常。

**（前書き）**

某萌えスレの自転車ネタに反応してみた。
ステキな絵師さんが二人も反応してくれて、イラストをつけてくださったんですよねー。
それに違う方が続きのＳＳを書いてくださったり。嬉しかったです！

風が、自転車をこぐアルトの艶やかな黒髪を包み込んでダンスする。
右に、左に、時には飛び跳ねてシェリルの頬を撫でていく。

「ちょっと、アルトこそばゆいわ」

全く嫌じゃないのにアルトの反応が見たくて、
風に踊るアルトの髪をつかんでツンツンと引っ張ってみる。
アルトは、ちらとシェリルの方を向くと面倒くさそうに息を吐いて口を尖らせた。

「仕方ないだろ。嫌なら自分で運転するか走れよな」
「嫌よ。……くっつけなくなるじゃない」

思わず零れてしまった本音はアルトの耳には届いていないようで、
アルトが大声で聞き返してきた。

「あ？　何か言ったか？」
「何も言ってないわよ！」

シェリルは、きっと赤くなっているであろう顔を見られないように、
そっとアルトの背に頬を寄せ、腰に回していた両腕に力を込める。

ゆっくりと流れる街並み、すれ違う人々。
見上げると雲が流れる青い空
――それが管理されたものであっても、綺麗だとシェリルは思った。

シェリルの口元がほころぶ。

「ねぇ、アルト」

「なんだよ」

「さっきから、歩いている人に抜かされているような気がするのはキノセイかしら？」

「くっ……」

そう、ここは地球にあった坂道で有名なサンフランシスコを模した街。

ゆえに坂道が多いわけで……

そこをアルトは、シェリルを後ろに乗せたまま自転車を走らせていたのだ。

ゆっくりと自転車で通り過ぎていくシェリルを、道行く人が銀河の妖精だと気がつき、手を振るのにシェリルが笑顔で応える。

「ＥＸ－ギアを扱えるなら、これぐらいたいしたものじゃないと思ってたけど、

そうでもなかったのね」

「お前なぁ、でっかい荷物を乗せてんだよ！　仕方ないだろう」

「でっかい荷物って何よっ」

シェリルはバシッとアルトの頭をはたく。

「女の子の一人や二人、乗せたぐらいで情けないわね」

アルトはシェリルの言葉に一瞬詰まった後、自身の腰に回されたシェリルの手をつかんで

「シェリルしっかりつかまっておけよ！」と言い放つ。

すぐにアルトの手は離れたが、シェリルが驚きで言葉も出ないで

いると、
「うおおおおおおおおお」という雄たけびとともにアルトが全力で自転車をこぎ始めた。
最初はゆっくり流れていた景色も次第に早くなり、
落ちないようにと、さらにぎゅっとアルトにしがみつくことになる。
大好きな人の鼓動や温かさに触れることが出来て、二人だけの時間を過ごしてる。
なんてステキなんだろうとシェリルの心は歓喜の悲鳴を上げていた。

――あ、来るっ。

歌が、舞い降りてきた。

この時間を少しでも長く味わいたい、でも、この気持ちをカタチにしたい。
シェリルは一瞬迷ったが、背中からアルトをぎゅっと抱きしめると口を開いた。

## ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n3745m/

風のダンス

2010年10月9日20時03分発行